



欄に数値またはコメントを記入

<b>1. 建物概要</b>			
建物名称	高雄工業株式会社 静岡事業所(三期)建設事業	BEE	0.9
		BEEランク	B-
			★★

2. 重点項目への取組み度			
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.5 /5		ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.7 /5		がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.3 /5		がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.8 /5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4点以上	ふつつ 3点以上
			がんばろう 3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>		得点	3.5	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>④耐用年数の長い内装材及び配管材を採用した。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤既存緑地をそのまま保存し、豊富な緑地を設けることで生物環境の保全に配慮した。 ⑥敷地内に豊富に緑地に設けるような外構植栽計画を行い、燃焼設備の設置を無くした。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦外壁に面する窓を極力減らすことにより、高断熱化を図っている。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑪給水設備は節水器具を採用</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑭省エネルギー対策と、高炉セメントの採用。 ⑮外構の全舗装面に保水性ブロックを採用した。主風向に対する見付面積比を50%以下とした。</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p> <p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>			
	<b>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</b>		得点	2.7
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>		
		<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b>		得点
	<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>㉑既設の建物にあわせる外観として、周辺と街並みの調和を図っている。</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上</p>		
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b>		得点	2.8	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (②生物環境の保全と創出/②②まちなみ・景観への配慮/②③敷地内温熱環境の向上)</p> <p>②③敷地内既存大景木の建物廻り再配置により外構緑地指数50%以上を確保した。 ②④緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。</p> <p>■敷地外環境対策 (②⑤持続可能な森林から産出された木材/②⑥温熱環境悪化の改善)</p> <p>②⑤主風向に対する見付面積比を50%以下にした。</p>	<p>Q-3 1 ②③ 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ②④ まちなみ景観への配慮</p> <p>3 3.2 ②④ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-2 2 2.5 ②⑤ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>LR-3 2 2.2 ②⑥ 温熱環境悪化の改善</p>			

# CASBEE® - 建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	高雄工業株式会社 静岡事業所(三期)	階数	地上2F
建設地	静岡県袋井市下山梨字鶴田2153番	構造	S造
用途地域	用途地域:工業地域・工業専用地域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,600 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	
竣工年	2022年12月 予定	評価の実施日	2022年5月7日
敷地面積	69,484 m <sup>2</sup>	作成者	中日設計株式会社
建築面積	6,882 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	7,024 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

##### Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.3

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

#### LR 環境負荷低減性

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.0

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。	
その他	0	
Q1 室内環境	※評価対象外	
Q2 サービス性能	耐用年数の長い配管材(VLP管・VP管等)や内装材を使用して部材の長寿命化を確保している	Q3 室外環境(敷地内)
		・既設の建物にあわせる外観として、周辺と街並みの調和を図っている。 ・緑地を豊富に確保して温熱環境の向上を図っている。
LR1 エネルギー	外皮の断熱性能を高めて建物の省エネルギー化を図っている。	LR3 敷地外環境
		・光害の抑制に配慮している
LR2 資源・マテリアル	・節水器具を採用している。 ・躯体と仕上げ材の分別を容易にして、リサイクル性の向上を図っている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される